

河川整備計画進捗状況報告項目（2 / 2）

整備内容シート番号	大項目	事業名	ページ
計画 - 1 - 1	河川レンジャー	河川レンジャー	1
環境 - 3 - 10	河川環境事業 (縦断方向の河川形状の修復)	縦断方向の河川形状の修復の実施	4
環境 - 12 - 4	水質保全対策(既設ダム)	既設副ダムの継続活用	7
維持 - 3 - 1	維持管理(河川区域の管理)	樹木の伐採と管理	9
維持 - 3 - 7	維持管理(河川区域の管理)	河道内堆積土砂等の管理	9

平成18年5月18日

木津川上流河川事務所

番号	整備内容シート番号	計画-1-1	河川名	木津川上流
3	大項目	河川レンジャー	事業名	河川レンジャー

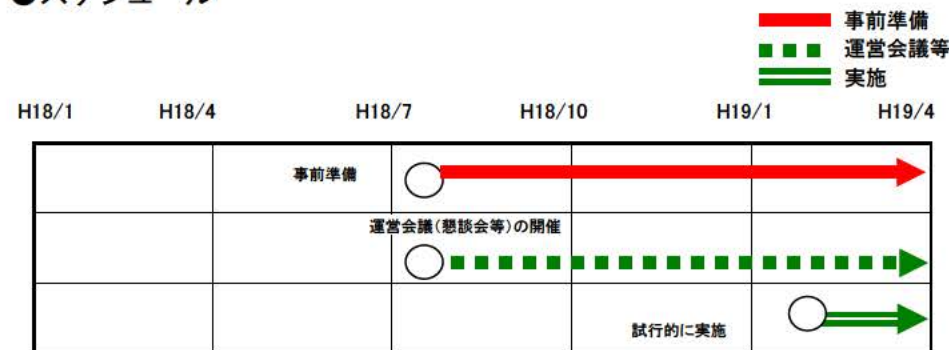
●具体的な整備内容

遊水スイスイ館を活動拠点として試行的に河川レンジャーを任命し、活動を行い、その試行的活動を通して河川レンジャーの活動内容や役割等について運営会議(懇談会等)において検討する。

●検討・実施内容

木津川上流河川事務所管内における河川レンジャーの取り組みの基本的な考え方は、現在、過去の伊賀地域における災害の歴史や上野遊水地事業計画等を鑑み、防災面を基軸としたものとして、環境学習や動植物の保護活動、不法投棄の監視、河川利用者への安全指導等に発展させてゆくことで、今後の河川管理を支援するという観点で実施するため、現在、基本構想の検討を進めている。

●スケジュール



●概要

■河川レンジャーとは

河川レンジャーは、住民等と行政が連携・協働して、川を守り、育てるために誕生した存在です。

この河川レンジャーとは、川との係わりが深く、川に関するさまざまな取り組みの主導的な立場にあって、住民等と行政とを調整し、まとめることができる地域の情報や知識に詳しい人や団体(団体に属する個人を特定)です。

河川レンジャーは、河川管理者の代理人ではなく、自らの意志と責任のもとで、個性と特性を活かした活動を行います。

また、地域共有の公共財産である川をよりよい環境にするという観点から、住民等と行政が日常的な信頼関係を築き、住民参加による川の管理を目指して、住民等と行政との橋渡し役となることが河川レンジャーの務めです。



河川レンジャーの関係図

整備内容シート番号

計画-1-1

●木津川上流河川レンジャー(仮称)

- ・河川レンジャーの検討懇談会を設け、地域で活動している個人、団体や環境教育、河川文化に関心のある人たちに集まって頂き、いろいろな意見をいただく。
- ・懇談会のメンバーには、地域で活動している個人、団体に参加していただく

●H17年度の進捗

準備会構成委員

○木津川上流域河川レンジャー
(仮称)準備会

- ・「川づくり会議みえ」
- ・「川の会・名張」
- ・「地域と自然」
- ・「依那古体験隊」
- ・伊賀市
- ・名張市

2回開催

準備会の主な意見

以下について検討しました。

- ①懇談会委員の構成について
- ②懇談会における検討内容について



今後の見通し

河川レンジャーの選定にあたっては、懇談会にて十分検討した上で行います。

平成17年度の進捗

□準備会メンバー

- ・「川づくり会議みえ」から
- ・「川の会・名張」から
- ・「地域と自然」から
- ・「依那古体験隊」から
- ※木津川、名張川で実際に活動されている方から抽出
- ※行政メンバーは伊賀市と名張市

□開催回数 2回

検討内容(結果)

懇談会の委員構成

- ・委員の数は、8人～12人
- ・委員は幅広い活動、経験を有する人を
- ・公募での枠は、2～3人

懇談会で検討すべき内容

- ・レンジャーの拠点施設
- ・レンジャーの選考基準
- ・保険、安全確保
- ・活動範囲
- ・講習、研修

スケジュール

		会議	内容
17年度		準備会	
18年度	4月		
	5月	委員募集(公募)(推薦)	
	6月	懇談会第1回	レンジャーとは (再) 規約の確認 活動拠点の検討
	7月		
	8月	懇談会第2回	活動内容 地位、身分
	9月		
	10月	懇談会第3回	活動内容 候補者
	11月		
	12月	懇談会第4回	レンジャー任命
	1月		
	2月	懇談会第5回	活動報告 来年度計画
	3月		

平成18年度の進捗

□懇談会メンバー

- ・準備会メンバーは懇談会メンバーに移行
- ・行政メンバー
- ※伊賀市、名張市の職員又は市からの推薦者
- ・公募枠での委員
- ※伊賀市、名張市、宇陀市等から

□検討内容

- ・活動施設の検討(遊水スイスイ館、名張市内の施設)
- ・レンジャーの選考方法
- ・活動に際しての保険、安全確保
- ・活動範囲の検討(国管理以外のエリア等)
- ・講習、研修制度

※なお、役割・地位、身分、報酬等の基本的な事項については、河川管理者で検討を進めている

□開催回数

- ・年度内に4～5回開催予定
- ・開催場所はスイスイ館等を利用

□今年度の目標

- ・河川レンジャーの任命(試行)を年度内に行う。

↑流域委員会の意見

番号	整備内容シート番号	環境-3-10	河川名	木津川上流
34	大項目	河川環境事業 (縦断方向の河川形状の修復)	事業名	縦断方向の河川形状の修復の実施

●具体的な整備内容

現状の堰、落差工等において、魚類等の遡上・降下に配慮した構造を検討する。

●検討・実施内容

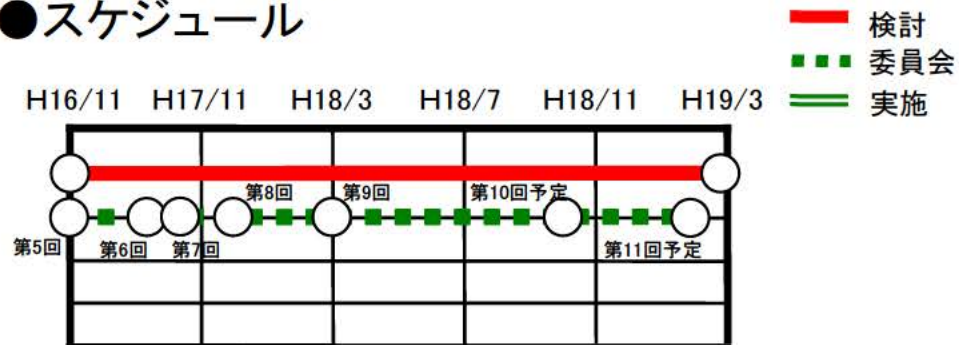
・該当個所での河川環境の現況調査
(対象となる魚類、植物等の選定、生息環境の検討など)

・魚類の移動・分布からみた現況施設形状検討
(機能性、維持管理、将来予測等)

【施設管理者】

キトラ井堰 甲寅用水水利組合
 鹿高井堰 宇陀川用水改良区
 大河原発電所井堰 関西電力
 相楽発電所井堰 関西電力
 高岩井堰 高岩井堰水利組合
 ナルミ井堰 室生村

●スケジュール



●現況写真(例)



ナルミ井堰

●魚道があるものの落差が約0.35mあり
魚類等の遡上・降下には大きすぎる。



キトラ井堰

●簡易魚道があるものの勾配1/1と急なため
魚類の遡上が困難。

●縦断方向の河川形状の修復の検討

縦断方向の河川形状の修復の検討に関しては、堰・魚道で実施した現状調査結果等を木津川上流河川研究会の部会である「堰・魚道WG」において専門的に議論していただいております、また、木津川上流河川研究会においても、そのWGの報告を随時行い全体審議していただいている状況である。

●H17年度の進捗

木津川上流河川環境研究会等 開催状況

- 木津川上流河川環境研究会(3回完了)
 - ・堰魚道WGの検討経過等について
 - ・堰管理者へ協力依頼
- 堰・魚道WG(3回完了)
 - ・管内堰魚道の改良検討について
 - ・木津川溯上アユ捕獲調査について
 - ・室生ダム水質保全ダム魚道の
魚類溯上調査について
- 水量・水質WG(6回完了)
- 河道内樹林WG(3回完了)

■現地視察風景



大河原発電所井堰 平成16年4月17日



相楽発電所井堰 平成16年4月17日

今後の見通し

平成18年度も引き続き、研究会、堰・魚道WG、水量・水質WG、河道内樹林WGを開催する予定である。縦断方向の河川形状の修復の検討についても引き続き審議していただく予定である。

木津川上流河川環境研究会等審議状況

H16までの審議・提言内容

■H15
第1回 環境研究会

■H16
第2～6回 環境研究会
第1～3回 堰・魚道WG

●調査・検討項目
施設状況把握、アユの遡上調査(魚道周辺)
現地視察(第2回環境研究会)

提言

既設堰6基について、いずれも魚道改良の必要有
河口～上野までの遡上が可能となる相楽・大河原
発電所の魚道改良を優先する

H17の審議・提言内容

第7～9回 環境研究会
第4～6回 堰・魚道WG

●調査・検討項目
アユの遡上調査(河口～堰下流)
堰管理者との協議

提言

継続性のあるアユの遡上調査の方法を検討する
河川環境、魚類の生息実態の変遷を調査する
魚道改良計画を検討する(相楽・大河原)

H18以降の検討内容

環境研究会 2回～3回 開催予定
堰・魚道WG 3回～4回 開催予定

●調査・検討項目
アユの遡上調査方法の立案、調査の継続
河川環境、魚類の生息実態の変遷を調査
魚道改良計画の策定(相楽・大河原)

堰管理者、流域住民、NPO等も加わる合意形成の場(ワークショップ)
を設け、縦断方向の河川形状の修復への合意形成を目指す



大河原発電所井堰

●相楽・大河原発電所井堰においては、魚道通水期間が4月～7月の遡上期のみの状況であり、成育期の魚類等の自由な遡上・降下を阻害している。

番号	整備内容シート番号	環境-12-4	河川名	木津川
53	大項目	水質保全対策(既設ダム)	事業名	既設副ダムの継続活用

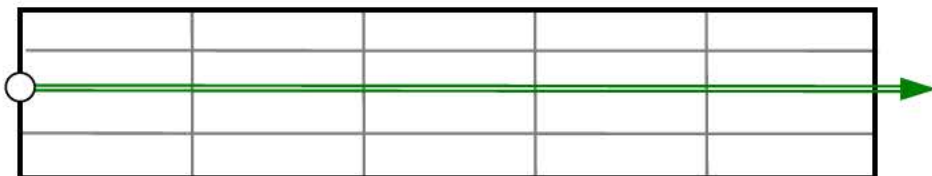
●具体的な整備内容

- ・既設の副ダムを継続して活用する。

●スケジュール

— 検討 — 委員会 — 実施

H15 H17 H19 H21 H23 H25



平面図

室生ダム、布目ダム

整備内容シート番号

環境－12－4

●既設副ダムの継続活用

- ・水質保全：流入汚濁物の沈殿除去により水質浄化を図る（布目ダム）
- ・容量保全：ダム貯水池への流入土砂の軽減を図る（布目ダム）
- ・親水性機能の向上：水位の一定な水辺を作ることにより水とふれあうレクリエーション空間を創る（布目ダム）

●H17年度の進捗

進捗状況

- ・引き続き、室生及び布目ダムで副ダムの浚渫の継続実施予定。

堆砂除去の実績（布目ダム）

平成4年度～平成16年度の間に約89,000m³の堆積土砂を搬出



室生ダム堆砂除去状況

今後の見通し

副ダムの浚渫を継続実施予定

番号	整備内容シート番号	維持-3-1	河川名	木津川上流
193	大項目	維持管理(河川区域の管理)	事業名	樹木の伐採と管理

●具体的な整備内容

流水の阻害状況等を検討した上で、河川管理上支障となる樹木については伐採を実施する。

なお、実施にあたっては、住民・住民団体の意見も聞き、生物の生息・生育環境を配慮して、伐採の方法や時期等について定める。

●スケジュール

河道樹木管理計画を検討中

倒木の処理について「伐木の考え方」に編集予定



●概要

■河道内樹木の伐採

河道内の樹木は、河川の生態系の保全や、良好な河川景観の形成等に重要な要素となっている。しかし、治水安全上及び河川管理上の支障となる場合には、伐木を行うことで、治水安全度の維持が図れる。

河道内樹木の伐採と管理

伐木基準に沿って伐木を実施

整備効果

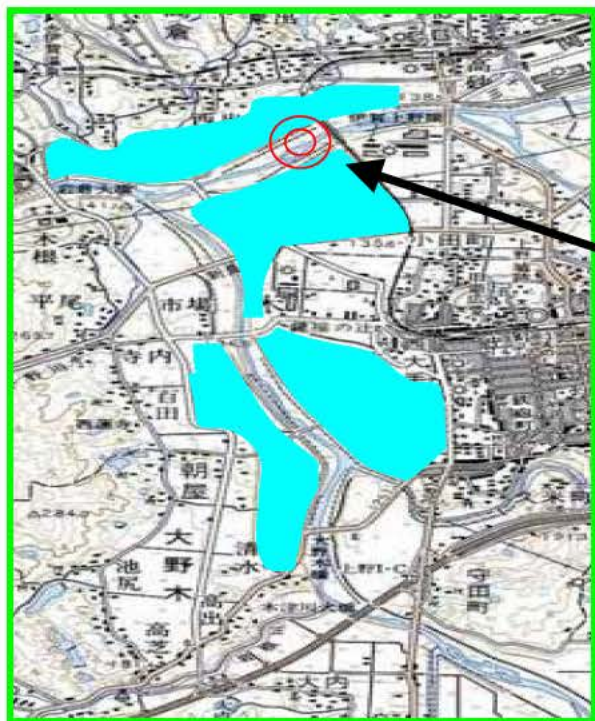
- ・流下能力の維持、拡大
- ・河川管理施設等の保護(被害回避)による破堤等の防止
- ・河川利用者に対する安全の確保
- ・快適で安全な河川空間の創造

伐木は、予め環境保護団体、学識経験者、地域住民等の意見を聞き、各河川毎に伐木の考え方を定め実施していく。

●概要

■河道内樹木伐採の検討

木津川, 服部川は河道勾配が緩く、河道内には竹林が多く繁茂している。そのため治水面と環境面からみた河道内樹林管理手法の検討を行っている。

調査
箇所

- ・竹林実態調査
(どの深さまで除根すれば除去可能であるかを検証)
- ・土壌調査
(竹林等の植生と土砂堆積との関係についての調査)

●進捗状況報告

木津川上流環境研究会 河道内樹林WG 年2~3回開催

